



子育ての知恵袋

2026年4月 No.1

今年度も幼児教育センターから、ことばや子育てに関する情報をご紹介します。

「ことばの教室」

幼児教育センター「ことばの教室」では、うまく発音がしにくかったり、困り感があったりする子どもに対して、発音の練習を行っています。担当するのは言語聴覚士です。まずは電話で来室の予約をお願いします。初回は「ことばの教室」で担当者がお子さんの発音や様子を見せていただき、保護者からもお話を伺います。そのあと家庭での練習方法や、来室の頻度などを相談させていただきます。

宝塚市在住の就学前のお子さんが対象で、未成小学校内の教室で行っています。時間などの詳細は、幼児教育センター「ことばの教室」のホームページをご覧ください。

5月版で詳しくご紹介しますが、「音によって正しい発音が身につく時期」は異なります。もちろん個人差もありますが、3歳で「さかな」を「たたな」「ちゃあな」と発音しても、無理に「さ」や「か」を発音させようとしないでください。主な理由は、サ行は5歳代、カ行は4歳代で身につく音であること、覚え間違えている可能性があること、年齢的にまだ自分の音を聞き取る力についてはついていないため、言い間違いに気付いていないことなどが考えられます。

今年も「ことばの教室」から、ことばに関する情報をご紹介します。

幼児教育センター「ことばの教室」 0797-77-2230（直通）

*教室に担当者が不在の場合は幼児教育センターに転送されます。切らずにお待ちください。

～ことのはを考える～

～大人のことば～

言の葉（言葉）について発達・保育・育児など様々な視点から考えていこうと思います。

子どもが育つ魔法の言葉などと言われたりしますよね。頭では理解できてそれが出来れば苦労しないと思うものです。血の繋がりは大きく、親子で気持ちもシンクロしていく事が多いため、うまくいかない時は親子ともども疲れた経験がありませんか？

しかし、心の安定感・親子の距離感を得るために、大きくなるほど言葉も確かに大事です。

今年の冬季オリンピックは、目覚ましい躍進の日本でしたね。自分は出来ると信じ、出来たと思ったのに金メダルがとれなかった選手の悔し涙に『頑張った、次がある！』とエールを送る半面、棄権選手などへの誹謗中傷もありました。言葉は自分の心の写しです。貧しいのか、豊かなのか、相手を自分に置き換えて考えられずに言葉を発する人は悲しいですね。



子どもに育てたいと言われる『非認知能力』である社会的情動の「心情」「意欲」「態度」。そして、自尊感情も大事だと理解している人は多いでしょう。(2024年の知恵袋参照)

子どもが自身の能力を発揮するために大人の心も試されたりします。発した言葉が素敵だと発した本人も気持ち良いものです。

聞かせたい、聞きたい言葉は何でしょう？子どもがたくさんを葉を茂らせられるよう大人も元気に子どもと向き合えますように。

幼児教育センターは、就学前から小学校教育へつなごます
夢と希望のもてる ためらってこを
応援します！

宝塚市教育委員会 幼児教育センター
〒665-8665 宝塚市東洋町1-1
電話 0797-71-1141(市役所)
0797-77-2132(直通)
FAX 0797-71-1891
E-mail m-takarazuka0289@city.takarazuka.lg.jp

★ 発達、就園・就学等の相談がありましたら、上記にご連絡ください。